

大茅地区振興協議会まちづくり計画

1. 地区の現状

大茅地区は因幡万葉湖の上流に位置し、森林に囲まれた緑豊かで特徴的な自然環境があり、観光を目的とするお客さんが県内外から訪れています。雨滝を筆頭に地区全体が「山陰海岸ジオパーク」のエリアに指定されている他、特徴的な伽藍配置の「朽本廃寺跡」など学術的にも貴重な資源があふれています。また、各種行事などで地区外から来られる方々は一様に「大茅の人はあったかい」と口にされ、都市部にはない大茅特有のつながりを魅力として感じてもらっているのだと思います。

その一方、大茅地区は現在6集落に約200人が暮らしていますが、高齢化率は5割を超えており、子どもも少なくこのままでは地域を維持する担い手が不足することは明らかです。特に冬季は豪雪に見舞われることも多く、そのたびに不安を感じながら日々過ごさざるを得ない状況もあります。

2. 計画のねらい

このような状況の中、すぐれた自然環境を持つ大茅地区を次の世代に引き継いでいくためには、地区の住民と行政とが共に手を携えると共に、住民相互より一層協力し合って課題を解決していく「協働のまちづくり」の実現を図ります。

3. 大枠の方針

- (ア) 世代間・地域間交流の推進
- (イ) 仲間づくりと健康推進
- (ウ) 地域資源の再発見と有効活用の推進
- (エ) 安心安全な大茅づくりの推進

4. 活動のスローガン

住んで良かった！帰ってよかった！大茅の郷

5. 個別の方針

(ア) 世代間・地域間交流の推進

進学・就職などの理由で大茅を離れた方々に、再び戻ってきてもらえるよう、世代間の垣根を超えて交流が図れる場を構築し維持できるようにしていきます。若い世代が大茅に魅力を感じ地域に関与してもらえるような方法について考えていきます。また、先進的な取り組みを地域ぐるみで実施しているところも多数あることから、そのような地域との交流・連携により大茅に活力を与えるだけでなく、より大きなまちづくりのうねりを作ります。

☆キーワード

納涼祭・運動会・文化祭・まちむら交流・UJI ターン

(イ) 仲間づくりと健康推進

「地域おこしは人づくりから」とも言われ、地域内でのリーダー養成・確保や協力体制の確立が求められています。このためには、普段から住民どうしがコミュニケーションを取り、互いに絆を深めあうことが何より重要と考えます。

また大茅地区は高齢化が進行しておりますが、健康で元気に過ごされている方も多く、日々農作業に従事しておられます。こうした人々が自然環境の保全にも重要な役割を担っていることから、運動会や健康講座などを開催するなど更に健康づくりに留意し、地域活性化に取り組みます。

☆キーワード

サロン/サークル・健康出前講座・買い物支援・見守り活動

(ウ) 地域資源の再発見と有効活用の推進

大茅には豊かな地域資源があることは言うに及びません。大茅地区振興協議会では、「ホタルの里づくり」を目指して数年にわたる活動を続けてきました。今後も「鳥取東部では最も遅い時期のホタル」を地域の大切な資源として守り育てていく活動を進めていきます。

また、大茅にはこのほかにも「雨滝」や「扇ノ山」などの名所の PR や豊かな水・森林資源を有効に活用していく方法などについて検討します。

☆キーワード

雨滝・栃本廃寺・扇ノ山・ホタル・菅野ミズゴケ湿原・雪・農業

(エ) 安心安全な大茅づくりの推進

近年、異常気象の多発により発生する災害が以前より深刻なものとなっています。大茅地区にも各所に土砂災害の警戒・特別警戒区域が設定されており、災害と無縁ではありません。緊急時の対応について日ごろから備えておくことが大切です。

また、自動車を利用する住民も多く交通安全に対する意識を形成していくことも重要です。

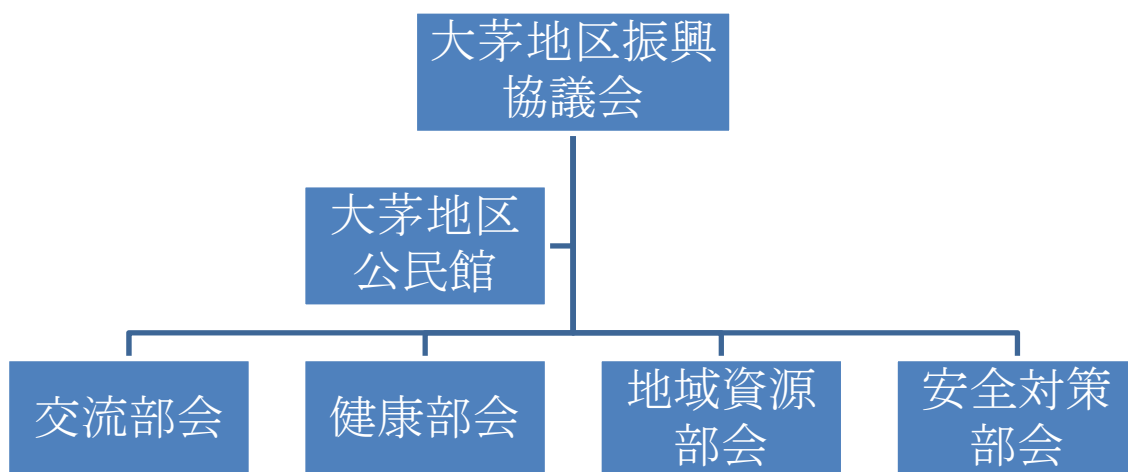
☆キーワード

避難訓練・防災/減災・火災予防・交通安全

6. まちづくりの体制について

具体的なまちづくり事業を検討していくために、個別の方針に対応する部会を設けます。事業実施の際も部会が中心となりますが、引き続き住民全体

で支えていくことで円滑に事業が実施できるようにします。
一部会の例一



作成年月日：平成 30 年 3 月 1 日
作成者：大茅地区振興協議会